

## 第7回自然と親しむ子ども山登り教室無事終了

### ★武甲山(6月16日)

参加者 子ども5名  
スタッフ6名  
別働隊 会員(子ども1名、障害者1名、  
健常者5名)  
親御さん2名

スタッフ

会員

親御さん

家を出る前に、5分の時間があったので、パソコンを立ち上げて、気象庁のレーダー・ナウキャストを見ると、埼玉県の秩父地方は、あと3時間から4時間くらいで雨が止むだろうと予想して家を出る。

電車の中から、「そろそろ止むはずの時間なんだけどな～」と思いながら外を見るが、水たまりには雨が落ちた模様がたくさんできている。「今は雨でも歩き始めれば止むはずだ」と思って、予約したタクシーに横瀬駅で乗り込む。

電車の中で、子どもたちに「ラジオ体操の先生をやってよ」と言っておいたのだが、もうみんなやる気がない。全盲のAさんが先生になってくれた。

雨具を着て歩き始めるが、雨具の中は蒸し風呂状態。汗がじわりじわりとにじみ出てくる感じだ。しかし、不動滝を過ぎる頃から雨が止ん

だので、カッパを脱ぐことにする。全員カッパを脱ぐと雨が降るから、「Kさんカッパを脱がないで」と言ったが、脱いでしまった。でも、何とかジンスクが当たらず、その後雨が降ることはなかった。



不動滝を通過する

今日も元気にKちゃんや男の子たちと先頭に行く。今日は、先頭の私より先に行く子はいなかった。それよりも、男の子たちは、「休憩しよう」を連発し、今日はバテ気味みたいだ。しかし、Kちゃんは元気いっぱい。早く行こうと手をつないでいく。1丁目ごとに標識があり、励みになる。途中の大杉は31丁目だった。



武甲山山頂にて

さらに登って、ようやく神社が見えた。そこが52丁目だった。山頂はそこから目と鼻の先。しかし、山頂直下の岩は滑りやすく注意が必要だった。

山頂に着くと、霧が晴れて、秩父市街がよく見えるようになった。その向こうには長瀬アルプスだろうか？低い山々が見えていた。

山頂でお昼を食べ、集合写真を撮って下山にかかる。下山路は、急坂が続き、危険なため、子どもたちの間にスタッフに入ってもらう。女の子たちは、手をつないで下る。しかし、子どもたちは全く恐怖感なし、疲れ知らず。将来が楽しみだねえ。

急坂が終わったところから、小持山が見えた。空には青空も見え始めた。最後の急坂をジグザグに下りると、沢に出る。流れが急で心配があったが、沢には入らないように注意して遊んでもらう。子どもたちは木を流したりして遊んでいる。さすが遊びの天才だね。



滑りやすい丸太の橋を越え、少し行くと林道になった。ホッと一息ついて、林道をぐんぐん歩く。いつもの土津園の茶店で休憩する。そして浦山口から池袋行きの電車に乗り込む。

電車の中も元気いっぱい子どもたちだったが、池袋駅に着いたら、一気に疲れが吹き出してきたのだろう、床にしゃがみ込むAちゃんがそこにいた。

記：網干

#### 《参加者の感想》

土曜日から天気が気になって仕方なかった

が、子供たちに明日雨降るんだけど、山いく？どうする？って聞いたら

二人共「いく～」という元気な返事。これで雨の武甲山が決定。ちょっと気が重かったのはわたしだけだったようだ。

山は九十九折の山道。1丁目から52丁目まであるそうだ。26丁目で半分。あ～まだ半分ある。子供たちは相変わらず元気だ。雨具を着ているとサウナ状態で、湿度は高く、じっとりと汗が出てくる。不快指数100%。途中で雨具を脱いだ時の開放感はたまらなかった。

山頂についたとき、雲が切れて秩父市の街並みがみえた。雨の予報で二の足を踏んでいたが、来てよかった、子供たちも昼食を元気に食べている。至福のひとつ。

下山の途中、Yが足が痛いといいたしたので子供グループから離れて二人でゆっくり歩いた。他人の目がないからか、甘えが出て、ぐずぐずしていたが、川の音が聞こえて、子供たちが遊んでる声が聞こえたら急に目を輝かせて、走り去ってしまった。この変わりようはなに？置いていかれたわたしは、呆気にとられてしまった。今日元気に頑張ったご褒美のラムネとかき氷を食べて大満足な子どもたち。

帰りの電車からは今日登ってきた武甲山が見えていた。石灰を削られていてその山容は痛々しかったが、その姿は堂々としていました。孫たちもよく頑張りました。池袋までは元気にしていた孫たちもみんなと別れるとぐったり。混雑してる電車の中、ザックの上に座って眠り込んでしまっていました。我が家の孫たちの子供登山は終了しました。Aリーダー、子供登山スタッフのみなさん、別働隊の皆様、お世話になりました。そしてなによりも一緒に苦楽を共にし、孫たちと歩いてくれたSくん、Aくん、Hくん、Aちゃん、ありがとう。また会う日まで。

記：S.Kさん

今回は「疲れた」といった子供がいません

した！帰りの駅でも走り回っていました。とても楽しかったのでしょうか、すごいことだと思います。

子供達のチームワークも一段とよくなったような感じがしました。いたずらしたり、競争したり、思いやったり、いろいろなことをしながらお互いのコミュニケーション量が増えているようです。H君は人の顔をよく見るようになりまして。川で大きな枝を投げ入れてものすごい勢いで流れていった光景を見て、万歳して飛び上がって喜んでいました。

レディスはAさんと手をつなぐのを独り占めしようと競争しましたが帰りは仲良く一緒に遊びながら過ごしました。A君は悪いことを

注意したり、お菓子をみんなに平等に配ろうとしました。いつもながら冒険心たっぷりの子供リーダーS君は大声でこだまを確認すると、続いてほかの子供達も次々と大声を出してこだま合戦がはじまりました。Y君は途中でみつけたカタツムリを大事に大事に持って歩いてくれました。

本当に楽しい1日でしたね、みんなの笑顔は最高でした！  
記：M.Yさん

### コースタイム

一の鳥居(9:20)…武甲山(12:00-12:40)…  
林道(15:00-15:05)…土津園  
(15:40-16:00)…浦山口駅(16:10)

## ★南アルプス薬師岳・観音岳(7月13日～14日)

参加者 子ども2名

スタッフ6名

別働隊 会員(障害者4名、健常者6名)

スタッフ

会員

ていく。それを追いかけるが、他の登山者にはっこりと笑っていた。

本来の杖立峠ではないが、道標の立っている杖立峠で休憩する。ちょうど風が吹き抜けて、ちょっと休むとすぐに寒くなる。下界の暑さが嘘のようだ。展望は良くないが、少し開けたところに出た。何も標識はないが、ここが杖立峠なのだろうか？

### ☆7月13日

今回は、自然と親しむ子ども山登り教室の4回目、南アルプスの薬師岳だ。最終的には、時間がかかり余りそうだったので、観音岳まで足を伸ばしました。

今回は、小学6年生の同級生二人だけの参加となった。夜叉神峠入り口で自己紹介をして出発する。ジグザグの登山道を登って、展望の良い夜叉神峠に着く。白峰三山の山頂部は雲の中だったが、残雪のある高山は見ていると、気持ちが高ぶる。

峠で早い昼食を取り、杖立峠に向かって行く。結構急なところもあるが、R君はぐんぐん登っ



次は萁平を目指す。その前に、展望の開けたところに出る。白峰三山が見え、農鳥岳の左奥には荒川三山が見えていた。その左には、笹ヶ岳方面の山や楕形山が見え、さらに左には、富士山がひととき大きく佇んでいた。

萁平は樹林帯の中で展望はないが、ここは千



頭星山方面への分岐点だ。R君もSちゃんも元気に登っている。ここからしばらく下っていくと、そのコルに南御室小屋があった。受付を済ませて中に入る。小屋に着いた頃、ぽつぽつ降り始めた雨は、しばらくすると土砂降りになった。少し早いペースだったが、ぬれずに済んで良かった。夜は、大阪から来たグループと一緒に小屋の外で歌を歌い、深い眠りについた。



南御室小屋にて

☆7月14日

予定の時間で行くと、帰りのタクシーが来るまでかなり待つことになりそうなので、観音岳まで往復することにする。朝食も5時に食べることができ、少し早めに出発することができた。

樹林帯を黙々と登っていく。木々の向こうに朝のオレンジ色に染まった空が見えている。R君に「山は良いな～」と言うと、R君も「そうだね～」と言い、本当に山が好きになったようだ。



がま岩にて

がま岩に着くと、少し木に隙間ができて、白峰三山が見えるようになる。ただ、まだ雲をかぶっていた。というより、6時頃は雲がかかっ

ていなかったようだが、足下にはキバナノコマノツメがたくさん咲いている。



タカネビランジ

さらに登ると、森林限界に出て、視界が一気に開ける。ここからは風化した花崗岩の砂礫地を歩いたり、花崗岩の岩場を歩くようになる。これから登る薬師岳と観音岳も見えてくる。

岩場を下って、薬師岳小屋に到着する。ここでも寒いが、山頂部は風が強くてかなり寒いそうだ。みんな雨具の上着を着て出発する。薬師岳の山頂からの展望はすばらしい。山頂付近が雲に隠れているのは残念だが、観音岳から仙丈岳、そして白峰三山、富士山、奥秩父、八ヶ岳までほぼ360度の展望だ。



富士山を背に薬師岳から観音岳を目指す

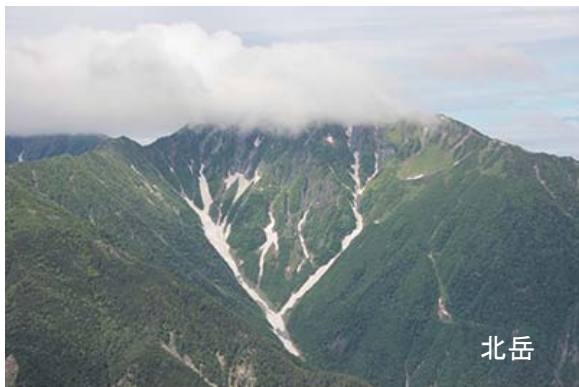
少しくだって観音岳への登りにかかる。山頂直下で、ちょっとザックが邪魔して登りにくい岩場があった。帰りはここが要注意であることを覚えておく。

観音岳の山頂に着くと、鳳凰三山のもう一つのピーク、地藏岳が下に見える。観音岳は、鳳凰三山の最高峰だ。今まで見えなかった甲斐駒ヶ岳は、山頂部をすっぽりと雲に包まれて位置

の分かっている人でないと、どこにあるのか分からないくらいだった。



集合写真を撮り、懸念された岩場のことを考え、子どもたちと岩場が苦手な人にソウンスリングを腹に巻いてもらって下山にかかる。懸念された岩場は、一応ロープを使ったが、問題なくみんな通過した。下っている途中でハケ岳は完全に姿を現し、仙丈岳や北岳ももう少しで雲が切れそうなので、薬師岳山頂で少し長い休憩を取る。しかし、雲は完全には取れてくれなかった。



昨晚、テントに泊まったSUさんは一足早く薬師岳小屋に向かった。薬師岳小屋でデポした荷物をザックに詰め、ちょっと早い昼食タイムを取り、下山にかかる。

長い下りは、元気だったR君も早く着きたいというようになるくらい、足に効える。ようやく夜叉神峠に着き、中休止。白峰三山は、昨日よりよく見えるようになったが、最後まで山頂はすっきりと見えてくれなかった。

夜叉神峠に着くと、もうタクシーが待ってい

てくれた。甲府駅近くの風呂で下ろしてもらって、汗を流し、すっきりして電車に乗ることができた。SちゃんもR君も、最後まで本当にがんばったね。次はいよいよ最後の薬師岳だね。

記：網干

#### 《参加者の感想》

元気一杯のR君は最初から最後まで飛びはねるように歩き通しました。下山時に登ってくる人に挨拶しながら「頂上、楽しいよ！」とR君が言うと登山者の方は「あー、ありがとう！」と嬉しそうなお顔をされていました。

子供は少なかったので、会う人会う人に「すごいね！」とか「がんばってね！」など声をかけてもらい二人とも嬉しかったようです。

Sちゃんは小屋の雑記帳に「今日登ってきたみなさん、（声を掛けてくれて）ありがとうございました」と書いていました。先頭部隊はペースが速かったので、途中はSちゃんが後続部隊のトップを歩く場面がありました。Sちゃんは「みんなついてきている？」とか「ペースこのくらいいい？」など気を配る様子もみせつつ、ちょうどよいペースを保ち歩いてくれました。それぞれに人を思いやる気持ちがとても暖かく感じられた山行でした。 記：M.Yさん



子ども登山 4 回目は南の薬師岳、標高差は累計で片道 1700 近く、距離も 20 キロある。わたしは行く前にそんな変な計算をしまわうくせがある。そんな計算をすることもなく、子供たちはリーダーから 1 枚の地図をもらっ



て興味深々、元気いっぱい出発。その笑顔とパワーに導かれながら、山を歩いているうちにその計算もいつのまにか飛んでました。

高山植物は思ったより咲いてなくて、まだ花期は早いのかなと思ってたら、岩の影にそっと咲いてる花が。ちょっと気がつかない場所。それが貴重なタカネヒランジだとは。南アルプスにしか咲かない、それも8月の花という。あなたに会えてよかった。



計算してるときから観音岳までいけばいいなと思ったことがかなって、地藏岳、オベリスクが上から見える。天気はやや曇り、でも太陽が燦々と降り注ぐこともなく、歩きやすくてよかった。眺望もばっちり。富士山もシルエットのようにそこにあり、南アルプス連峰がずらっと並んでいる。美しすぎる。下界の暑さを忘れるひととき。ちょっと寒すぎてあったかいコーヒーをいただいた。それがすごく美味しかった。

この山行、反省することもありました。出だしが早すぎて、オーバーペースになってしまっ

### ★北アルプス薬師岳(8月3日～5日)

参加者 子ども3名

スタッフ5名

別働隊 会員(障害者4名、健常者7名)

スタッフ

会員

たこと。男性陣の思いやりに救われ、Kさんもだんだん元気になってきて、一緒に山頂まで歩いて無事に帰ってくることができてよかったです。

今回の子供登山山行、我が家の孫たちはどうだったろうと考えました。みんながいればやっぱり登れるのだろうか？きっと仲間がいろいろな話をしてくれたり、お菓子ももらったり、手を繋いだりしてもらって登れちゃうだろう。

Aリーダー、いつも楽しく山行を盛り上げていただき、ありがとうございます。山ってやっぱりリーダー次第で苦しい場面も楽しい場面になっていきますね。人のちからの強さを感じます。参加者の皆さん、いつも教わることばかりです。あたたかな、叱咤激励ありがとうございます。

記：S.Kさん

### コースタイム

7/13 夜叉神峠入り口(10:00)…夜叉神峠(11:05-11:35) … 杖立峠(13:30-13:45) … 葛平(14:45-15:00)…南御室小屋(15:25)  
7/14 南御室小屋(5:50)…薬師岳小屋(7:05-7:25)…薬師岳(7:35-7:40)…観音岳(8:10-8:20)…薬師岳(9:00-9:20) … 南御室小屋(10:40-11:15) … 夜叉神峠(14:00-14:15) … 夜叉神峠入り口(14:50)

### ☆8月3日

富山駅で折立行きのバスを待っていると、どこかで見た親父さんが現れた。アルプ内でもすっかり有名になったMさんだ。今日は、山溪が主催？する気象講習会に参加して、私たちと同じコースを同じ日程で登るそうだ。登山道でも

同じペースで抜きつ抜かれつしていた。

折立に向かうバスの中から山を探すが、どの山も雲の中だった。しかし、後から知ったが、これは雲海で、山の上では素晴らしい天気だったようだ。

折立で出発準備をして急坂を登り始める。今回は、折立から三角点までが一番きつい登りとなる。昨日雨が降ったようで、ぬかるんだ道を登る。アラシちゃんの絵が目印となる休憩場所で休憩し、さらに登って三角点に到着する。上の方はまだ曇っているが、雲も薄くなってきているようだ。少し登ると足下は岩の道となり、麓には有峰湖が見えるようになる。



有峰湖を見下ろして太郎平に登る

昼食休憩の後さらに登ると、視界が開け、周囲はキンコウカのお花畑となる。タテヤマリンドウやミヤマリンドウも咲き、ニッコウキスゲも非常に多い。イワイチョウやイワショウブも咲いている。アカモノは登りはじめは実がなっていたが、上に登るときれいな花を付けていた。



五光岩ベンチ付近からの薬師岳

青空が見え始め、明日登る薬師岳も見えてきた。手前に咲くニッコウキスゲが良いアクセ

ントになっている。五光岩ベンチで休憩し、さらに登るとチングルマのお花畑がある。コバイケイソウも咲き、太郎平が近いことが分かる。



太郎平小屋までもう少し

太郎平に着くと、黒部五郎岳や雲ノ平、水晶岳、三俣蓮華岳などが見える。ニッコウキスゲのお花畑やチングルマのお花畑がすばらしかった。小屋は、布団1枚に2人という混雑だった。

夜8時頃外に出てみると満天の星空が広がる。北斗七星、カシオペア、はくちょう座、天の川、蠍座などとてもよく見える。流れ星もいくつか見られた。



イワイチョウ

☆8月4日

朝起きると一面霧で何も見えない。太郎平の木道を歩いて薬師峠を目指す。峠はテント場になっている。ここで休憩してから薬師平に登る沢の道に入っていく。厳しいと聞いていたが、さほどではない。ただ、増水すると危険なところもあった。

沢を登り切り、岩の多い道を登ると、雪渓が現れた。男の子たちは雪渓の上を歩いて楽しん



でいる。ここから少し行くと薬師平に到着する。この頃から雨が降ってきた。雨の中をがんばって登る。透明のビニールガッパしかないR君や、朝、少し熱のあったS君が心配だったが、二人とも元気に登っている。

薬師岳山荘では、コーヒーなどを注文して、玄関で休ませてもらう。子どもたちにも暖かいものを飲んで少しでも暖まってもらうようにした。



雪渓があった

深い霧の中を登り、山頂に着く頃には、霧がかなり薄くなり、明るくなってきた。山頂で写真を撮った後は、もしかしたら一瞬でも霧が晴れるかもしれないと思って待ったが、結局晴れることはなく、展望は全くなかった。



薬師岳山頂にて

山頂から下っていると右手の山腹にライチョウが見えた。子どもたちがはっきり場所を見つけていたので、教えてもらいながら接近し、写真を撮らせてもらう。雄はもっと背中などが黒いと思っていたが、目の上が赤いので、もしかしたら雄だったかもしれない。雌もいたので、つがいでいたのだろう。



ライチョウ

薬師岳山荘に到着し、ここで大休止。牛丼を食べる人や抹茶を飲む人など、思い思いに休憩する。周囲は次第に霧が晴れてきて、展望も少しきくようになってきた。麓の方が見えてきて、薬師岳の山腹も見えてきた。イワヒバリも近くにきたので、R君が写真撮影に一所懸命だった。

下るにしたがって天気は良くなってくる。チングルマやハクサンイチゲ、シナノキンバイ、ミヤマキンバイなどのお花畑もとてもきれいだった。薬師平を過ぎると、太郎平の登



チングルマのお花畑

山道と太郎平小屋が見えてくる。黒部五郎岳や三俣蓮華岳も見えてきた。薬師峠に下る沢も順調に下り、峠で休憩する。日差しが強くなり、登っているときに嘘のように暑いくらいになる。



太郎平を歩く



太郎平の木道を気持ちよく歩き、太郎平小屋に到着する。昨日より、遅いチェックインになったため、夕食は3回戦目、朝食も2回戦目の5時半だということなので、弁当にしてもらう。夕食後Mさんたちとも交流し、早々に床につく。

### ★8月5日

夜半、雨が降る音がしたが、起きたときも降っていた。しかし、出発する5時過ぎには止んでいた。ただ、深い霧で何も見えない。



思い切り山を楽しむ男の子たち

雨具を着て出発するが、次第に明るい曇り空となる。出発してまもなく、南東側の遠くに短い虹が見えた。さらに富山湾も見えるようになる。雨具を脱いで、下っていると、遠くに立山の弥陀ヶ原も見えてきた。回復するかなと思ったが、それは甘く、次第に南東側から黒い雲が押し寄せてきて、本降りとなった。本降りなのに雨具を着ようとしないう男の子たちに、「だめだ着ろ!」と強く言い、何とか着せることができた。

男の子たちは、どろんこの急坂もぐんぐん下っていく。登ってくる人から「子どもだけで歩くと危ないよ」と注意されるがいっこうに聞く気配がない。とにかく、私も遅れないようについていくしかない。速いペースで折立に着き、最後尾を30分も待つことになった。言うことを聞かない子どもたちへの対応は、今後の検討課題だ。

体全体も汗臭いが、せめて着るものだけでも新しいものにしようと、折立で全て着替える。

みんな合流し、Kさんが予約してくれたバスに乗り込んで、富山駅に向かった。車窓からも山は雲の中でほとんど見えなかったが、一瞬だけ、雲の中から剱岳のぎざぎざの稜線が見えた。

たくましく育っている子どもたち。いつかきっと剱岳に登る日も来るだろう。 記：網干

### 《参加者の感想》

小学生3人は皆、薬師岳の山頂に立ちました！ 登頂おめでとうございます！

お天気が不安定で雨が降り、風が吹く寒い中、たくましく歩き通しました。Sちゃんも昨年も増して、歩き方のバランスがよく、体の軸がしっかりしていました。R君とS君は体中で山を楽しんでいたように見えました。2日とも夕飯まで雪渓でそりすべりや雪合戦を満喫していました。皆、毎日体力がついていくようで頼もしい限りでした。

子供達の元気と笑顔にたくさんのパワーを頂きました。子供達に感謝です！

記：M.Yさん



3年目のSちゃん

先週に引き続き、金曜の夜行バスに乗り、今度は西日本富山へ。距離が長かったが、眠っているうちに富山駅。ここでみなさんと合流。

かなり暑いと聞いていたため、水はたっぷり2リットル。(これは結局半分以上残っていた)先週の北穂高に比べてザックが軽い、それでも気持ちが楽だった。折立からの道は地図上では5時間とのことだが、夜行明けの体はやや疲れていて、はじめは歩くのがだるかった。仲

間の屈託ない話に癒されつつ、ややぐちゃぐちゃな山道を登って、薬師平へついたときはもう雲上の楽園。そのときはすっかりリセットされて気持ちよく歩けた。相変わらず子供たちははるかかなたにいる。歌を歌いながら歩いて元気づけてくれている。その歌には何度元気づけられたか。ありがとう、山の子よ。太郎平に着いたときはたくさんの山男、山女が集っていた。とてもいい場所にある、この山小屋。夜は天の川がみえ、時折流れ星が流れている。心の静養には抜群な場所だと思う。



ニコウキスゲの群落と北ノ俣岳、黒部五郎岳

翌日、薬師岳へ向かうもまたしても雨の中をいく。山は晴れてるばかりじゃない。雨の日も風の吹く日もある。わたしは今回は晴れるときめつけ、雨具の防水を怠った。衣服も濡れてしまい、風にあたって寒かった。薬師岳の頂上に向かうときは雨も風もやんでいたのでどんどん体温が上がるのを感じた。頂上ではまったく雲の中。それでも山頂は人がたくさん集まってくる。リーダーがもう少しすれば雲が晴れるかもしれないと粘ったが、薄日がうっすらさすものの、晴れることはなかった。

太郎平小屋につく直前からさきほど登ってきた薬師岳が姿を現れ出す。大きな山体で綺麗な形をしている。あそこに行ってきたんだ、私たちよく頑張ったよね〜とかいいながら感慨にふける。行く時にはぼんやりしか見えなかった花たちも空の青さに映えている。気持ちのい

い風が吹き、しばし足がとまる。

3日目、やはり雨の中出発。家でみた天気予報とは違って、山の天気はよくわからない。どろどろになった山道。急な落差もあり、慎重に下山。子どもたち、別働隊員、みんな怪我をすることもなく、無事に下山できてリーダーもやっと気が休んだことだろう。お疲れ様でした。

Rちゃん、Sちゃん、SZちゃん、またどこかの山で会えたらいいね。君たちの未来の姿を想像する。どこかの山で若い仲間と大声で笑ってるのかな。子ども登山、子供は確かにまだ大人の手を借りないとならないこともあるが、それ以上に子供たちはわたしたち大人にいろいろなことを気づかせてくれます。

楽しい3日間、夏の思い出がまたひとつ。リーダー、山の子どもたち、諸先輩方、3日間、ありがとうございました。 記：S.Kさん



タテヤマリンドウ

### コースタイム

- 8/3 折立(8:50)…三角点(10:50-11:05)…五光岩ベンチ(13:05-13:15)…太郎平小屋(14:15)
- 8/4 太郎平小屋(6:35)…薬師峠(6:55-7:05)…薬師平(7:50-8:05)…薬師岳山荘(8:45-9:20)…薬師岳山頂(8:45-9:20)…薬師岳山荘(12:00-12:50)…薬師平(13:35-13:45)…太郎平小屋(14:55)
- 8/5 太郎平小屋(5:30)…折立(8:50)



### 自然と親しむ子ども山登り教室感想文（第3回武甲山）

山にいくと中に雨がふってきました。山に登れるかなと思いました。でも山に登ったら、楽しく登れました。きりで周りが、見えなくてつかれました。山の形は、表はがけだけど反対側は、ふつうの山でした。きりがないうちにまた登りたいです。

S.K 君

あつしくんとおべんとうをたべました。  
しょうたろうくんとみずあそびをしてうれしかったです。  
あかりちゃんとあいすとかきごおりをたべました。  
とてもおいしかったです。さいごにせちやんとあるきました。  
そのあとおいつきました。せちちやんがおそかったです。  
しょうたろうくん8月23、24にきてください。まっています。  
こんどはあつしくんとしょうたろうくんとあかりちゃんとかるみちゃんであるきましょう。  
あほしさんがりーだーです。

Y.K 君

あつしくんとおやまあつしくんおかしをくれてありがとう。  
とうやまあつしくん、しょうたろうくん、やまのぼってありがとう。  
やま、ゆうすけくんありがとう。いっしょにやまのぼってくれてありがとう。  
ゆうすけくんとかきごおりたべました。  
ゆうすけくんおかしをくれてありがとう。  
せつちやん、やまいてくれてありがとうございました。  
あつしくんいっしょにあそんでくれてありがとう。またあそぼうね。  
しょうたろうくんいっしょにあそんでくれてありがとう。またあそぼうね。  
ゆうすけくんいっしょにあそんでくれてありがとうございます。またあそぼうね。

K.K さん

- ①YがSちゃんのあたまをたたきまくったのがへんだった。
- ②なぞなぞを出しあったのがたのしかった。
- ③かきごおりとラムネがおいしかった。
- ④川あそびがおもしろかった。
- ⑤はしをわたったのがたのしかった。
- ⑥へんなラジオ体そうだった。
- ⑦木の雨ふらしごっこをしたのがおもしろかった。
- ⑧トイレの中がくさかった。
- ⑨おにごっこがおもしろかった。

A.T 君

## 自然と親しむ子ども山登り教室感想文（第4回南アルプス薬師岳・観音岳）

「やっとついた！」

ようやく小屋に着きました。入ると、少しせまく何かの秘密基地みたいな個室でした。

私はこの小屋に着くまで他の団体から「すごいね！」「がんばってね」と声をかけられ、元気が出てきました。この小屋にある日記に、このことを書きました。

2日目、薬師岳の山頂に出発です。その山道は、大きい岩がたくさんあるところでした。だけど、北岳などの山が見えてきれいでした。そして、山頂へ着きました。でも、時間がまだあったようなので、観音岳にも行きました。そこにも大きな岩があり、険しい山道で、きつかったです。下りもすごい急で、ひもをつないで下るほどでした。その後、バスに乗り、途中で温泉にも入ってさっぱり！気持ちよかったです。

次は最後の山になるので、今までよりがんばって登ろうと思います。

S.Iさん

## 自然と親しむ子ども山登り教室感想文（第5回北アルプス薬師岳）

夜行バスに乗り、約6～7時間ぐっすり眠り、富山駅前まで行きました。そこからまたバスに乗りつぎ、折立に到着。最初の登りは小屋まで約1000mと聞き、「大丈夫かなあ？」と不安になりました。

重たい荷物を背おい、急な岩場を頑張って登り、ようやく小屋に着きました。部屋は、2階の大部屋でした。少し休けいをしてから、外を散歩しました。山小屋でソリを借りて、夏なのに雪遊びができて楽しかったです。山側には雪けい、谷側にはチングルマなどのお花畑があつてきれいでした。

2日目、天気が悪く、きりもすごかったです。登っているときは、こごえるような寒さで、3枚重ね着をし、寒さをこらえながら、登りました。途中には、沢もあり、くつの中までびしょりになってしまいました。こんな思いをしてたどり着いたのにきりが白く、景色がぜんぜん見えませんでした。

3日目、下りだけなので「楽勝だ」と思っていました。ところが、途中で雨がはげしく降りだし、雨水が流れていて、山道はぬかるみ、くつの中もぐちゃぐちゃで、足下はすべりやすく最悪でした。

今回は、全体的に天気が悪い山登りになってしまい残念でした。でも、帰りのバスの中からは、とても大きくきれいな日本海が見えたのは最高でした。Yさん、いつも私の手を引っばってくれてありがとうございました。

S.Iさん



## 自然と親しむ子ども山登り教室（親御さんの感想）

小学2年生の息子、陽騎と年長の長女、朱里を朝4時半に起こし、すっかり明るくなった朝の中、始発の電車に乗り、アルプの皆さんと合流してからは、陽騎が喜んでずっと電車の中で大きな声を出して、ペラペラとしゃべりまくって乗客の注目を集めていました。

山に登り始めたら、地面がふかふかで歩きやすく、公園の散歩道を思わせました。子供達は元気よく歩き、陽騎はKさんと手をつないでもらいながらゆっくり歩いていて、後ろから歩いている人達に励まされていました。

のんびりながらも山頂に着いた時にはホッとして、富士山が美しく見えました。

下山は石コロが多く滑りやすかったのですが、登りと違い子供達はスピードを上げて歩きました。

今回の登山は、お天気にも恵まれ、多くの方から支援してくださり、ありがとうございました。次回も楽しみにしています。（三頭山の感想） Y.Yさん

このたびは娘（昨年迄は息子も）が大変お世話になりました。

山仲間アルプさんの子ども山登り教室を知ったのは、市の広報誌でした。

私自身も高校時代に山岳部だった経験もありましたので、子どもに登山を経験させることは有意義と考えていましたが、山仲間アルプさんは、単なる登山だけでなく、障害のある方とも分け隔てなく、登山を楽しむという活動目的に惹かれました。

本人はあまりその気ではないのですが、参加させてみることにしました。最初は半分イヤイヤながら（今でもそれほど積極的ではありませんが）参加していましたが、だんだんと自然に親しみを持ってきたようで、キノコを図鑑で調べたり、学校の発表課題でも高山植物の事を発表したり、少し興味がでてきたようでした。

また、本人はあまり自覚していないようですが、その小さな体で2~3000m級の山々を自分自身の足で歩ききったことや体の不自由な人たちと触れ合った経験や自信は本当に大きな財産になっていると思います。これからの人生で役立つことがあるかと思っています。

普段からマイペースで我儘な性格なので、スタッフの皆様には沢山の迷惑を掛けたいと思いますが、暖かく見守って下さったおかげで3年も続けることができました。一重にスタッフの皆様のおかげと感謝しています。

最後にひとつお願いがあります。最近、団塊世代・山ガール等ちょっとした登山ブームですが、山仲間アルプさんの活動は、冒頭にも書いた通り非常に有意義な活動をされていることから参加をさせていただきました。もし、単なる登山サークルだけなら参加はしていないと思います。おそらくは同じような考えの親御さんも多いのではないかと思料しますが、なかなかこの活動を知る機会がありません。

是非、積極的にPR活動を行ってより多くの子どもたちに機会が得られるようお願いしますと共に山仲間アルプ様の増々のご発展を祈念いたします。どうもありがとうございました。

K.Iさん

## 山行報告

### ★美ヶ原（10周年記念山行）（6月1日～2日）

参加者 会員(健常者7名)

#### ☆6月1日

梅雨に入って週末は雨の予報だったが、次第に良い方向に変わってきた。しかし、最も予報が難しいこの季節、土曜は晴れの予報だったが、どんよりとした曇り空で北アルプスや南アルプスは見えなかった。

三城でタクシーを降り、お昼を食べる場所を探す。しかし、あまり良い場所がなく、結局、広小場まで行くことになった。車道沿いにもアケビの花や、ズミの花が咲いている。スミレもいろんな種類が咲いている。石垣でシマリスを発見。本州では初めてシマリスを見た。登山道は遊歩道と書かれているので、広い道かと思ったが、普通の登山道と同じ、狭い道だった。



苔むした岩  
と沢の流れ

沢には、こけのびっしり生えた石がたくさんあり、沢の流れと相まってとても美しい。カワガラスも長い時間、姿を見せてくれた。溪流釣りをしている人もいた。途中、道が不明瞭になったため、道を間違ったと思い、引き返したが、釣り人に聞いたら間違っていないそうだ。再び引き返して進んでみると、上に上がる道があった。そこから少し行くとヒロコバーではなかった広小場に到着する。ここは、草原になって

いて、とても気持ちが良いところだ。まだ赤いつぼみをたくさん残したズミが咲き、梢ではオオルリがさえずっている。

広小場からは次第に急になってくる。唐松林や白樺林を通り過ぎ、沢沿いのみちになり、鎖場を過ぎるとジグザグの登りとなってくる。木の間から美ヶ原の稜線が見える。王ヶ頭や美しの塔も見えてきた。

ジグザグの道から山腹をトラバースしてハイランドロッジの近くに出ると茶臼山の山頂はすぐそこだ。茶臼山の山頂は、すばらしい展望だった。まさに登りついて、不意に目の前に雄大な風景が広がる感じだった。山頂からは、蓼科山、霧ヶ峰の車山、諏訪湖、鉢伏山、浅間山、荒船山などが見えていた。時間もオーバーしているため、集合写真を撮って山本小屋を目指す。



茶臼山山頂にて

ガレ場を過ぎると雄大な草原のまっただ中を歩くことになる。有刺鉄線にノビタキの雌が止まってくれた。カッコウやツツドリの声も聞こえる。牛を放牧しているので、糞を踏まないように注意しながら歩く。上空にはヒバリが元気にさえずり飛翔をしている。

足がつって苦勞していたNOさんにCさんがずっと付き添ってしてくれる。本当にありがたい。

時間はかかったものの、美しの塔に到着。草



原には牛たちがのんびりと草を食んでいる。塩クレ場は、牛たちに塩を与えるところ。牛たちが塩をなめていた。

山本小屋に到着し、すぐに風呂に入る。ここは山小屋ではないため、浴衣も準備されている。夕食はマトンの焼き肉だった。ワインも付いて、山仲間アルプ設立10周年を祝って乾杯する。名古屋から一人で来た男性も仲間に加わって、部屋で夜のひとときを楽しんだ。



山本小屋で10周年を祝う

☆6月2日

山本小屋の朝食は7時30分のため、男性陣はゆっくりと寝させてもらう。

今日はとても寒い。風も強く、1枚多く着て山本小屋を出発する。今日も昨日と同じく、どんよりと曇った空が広がっている。ただ、少しだけ昨日より明るい感じがする。



美しい塔にて

美ヶ原のメインストリートを歩いて王ヶ頭に向かう。牛たちは小屋に帰ることなく、草原で一晩を過ごしたようだ。雄大な草原を見回しながら、ゆっくりと王ヶ頭に登っていく。王ヶ頭ホテルでトイレを使わせてもらう。寒くて、

カップを着込む。ホテルの周りには、イワツバメが飛び交っていた。

ホテルの裏手が王ヶ頭の山頂だ。版状摂理の岩場で、岩の下は断崖絶壁になっている。ここよりも王ヶ鼻の方が展望が素晴らしいようなので、王ヶ頭から下りて王ヶ鼻に向かう。王ヶ鼻は、素晴らしい展望のところだ。晴れていたら、北アルプスが手に取るように見えることだろう。今日は見えなかったが、それでも足下には松本市街がよく見えていた。草原の武石峰もきれいに見える。



王ヶ鼻にて

あとは、林道を歩いて天狗の路地に向かうだけだったが、途中で普段は姿を見せないウグイスが木の上で長い間姿を見せてさえずってくれた。今回は、カワガラス、オオルリ、ノビタキ、ウグイスなどが見られて、野鳥でも収穫があった。

天狗の路地に到着すると、予約していたタクシーが2台待っていてくれた。浅間温泉に入るのはやめて、直接、松本駅に向かってもらう。道路脇のレンゲツツジはもう満開だった。あと2週間ほどで、美ヶ原もレンゲツツジの季節を迎えるのだろう。また、季節を変えて来てみたいですね。

記：網干

## コースタイム

6/1 三城(11:50)…広小場(13:00-13:30)  
…茶臼山(15:40-15:55)…山本小屋  
(17:10)

6/2 山本小屋(8:45)…王ヶ頭ホテル

(9:20-9:40) …王ヶ鼻(10:10-10:15)

…天狗の路地(10:55)

## ★乾徳山(6月9日)

参加者 会員(障害者3名、健常者7名)

前日の土曜日に徳和の山吹荘に泊まり、英気を養う。90歳のおばあちゃんがとても元気で、いろんな話をしてくれる。翌日の朝は、5時に朝食でも大丈夫ですかと聞くと、こころよくOKしてくれる。本当にありがたい。



山吹荘の夕食

朝、起きると、駐車場には車がたくさん止まり、大型バスも止まっている。もうすでにかなりの登山者が乾徳山に向かったようだ。岩場での時間待ちがないか心配になる。

宿を5時55分に出る。朝の空気がすがすがしい。おばあちゃんの勧めで、見晴らしの良い道を行ってみたが、登りがなかなか急で、まだしっかり起きていない体には、きつく感じられた。

徳和川沿いの乾徳山登山口から山道に入る。オオルリやヒガウなどの歌声を聞きながら登っていく。銀晶水は、雨が降らないためか枯れていた。何度か林道跡を横切り、急坂を登っていく。傾斜が落ちてくると、錦晶水に到着する。ここは、しっかりと水が流れていて、冷たい水を飲むことができた。

錦晶水まで来ると、国師ヶ原は近い。白樺林

を通過すると、国師ヶ原に到着する。ここからは、これから登る乾徳山の山頂がよく見え、周囲には、レンゲツツジやヤマツツジが咲いている。子鹿も現れてくれた。



富士山を背に草原を登る

さらに登ると、カヤトの草原状になり、振り向くと、富士山がくっきり見えた。やはり朝は気持ちが良いし、展望も良い。さらに登ると、南アルプスが北岳から聖岳までよく見えている。近いところでは、大菩薩嶺も見える。

月見岩は、ここの展望の良さを表した名前だろうか？ ここから少し登ると、扇平に到着する。ここまで来ると、尾根の向こう側に、飛龍山などの奥秩父の主脈が見えてくる。富士山を見ながら、日陰を選んで休憩する。



岩場の狭いバンドを通過する

ここからは、岩場が続く厳しいみちとなるため、ハーネスやソウンスリングを付けて登る。

登山道には岩が多くなり、手を使って登るところも増えてくる。髭剃り岩を過ぎるといよいよ



よ核心部だ。一部非常に狭くなった岩のバンドをトラバースする。そこを過ぎると、はしごを下る。そして少し歩くと、最初の鎖場となる。スタンスがたくさんあるので問題はないが、左側に落ちると助からないだろう。そこを登ると、引き続いて左右に2本鎖がたれた岩場になる。右の方が傾斜は弱い、足下はすっぱり切れ落ちている。左側はまっすぐ登るので多少安心できるが、傾斜は非常に強く上部は90度近くになっている。どちらも危険だが、登りやすい右側を登ることにする。ロープを結び合っているが、みんな、順調に登ってくる。



厳しい鎖場を登る

ここを過ぎると、しばらくは岩が多いが普通のみちとなる。左側の展望が開け、足下からすっぱり落ちた岩場も出てくる。ミツバツツジが咲くところを過ぎると、いよいよ山頂と直下の岩場が見えた。



頂上直下の岩場を登る

山頂直下の岩場は、傾斜は強いが、切れ落ちた場所はなく、健常者はザイルをつながず、ゴボウで登っていく。視覚障害者の人たちだけは、もしものことを考え、ロープをつないで上で確

保して登ってもらう。

この岩場を登り切ったところが山頂だった。展望は抜群だ。今まで見えなかった黒金山や、その向こうに国師ヶ岳、北奥千丈岳、金峰山、甲武信ヶ岳、さらに飛龍山までの奥秩父主脈がよく見える。ただ、富士山は雲に隠れて見えなくなり始めていた。

山頂で昼食を食べ、集合写真を撮って、迂回路から下ることにする。ここもはしごがあり、急坂なので、注意して下る。その後も、ロープをつないで、2カ所の鎖場も順調に下り、扇平に到着した。これで、とりあえず一安心。しかし、気を抜いたときに事故は起きるので、気を抜かないように慎重に下ることにする。下山は、道満尾根を使うことにする。

車道に下りて、荷物を預かってもらった山吹荘に立ち寄る。バスの時間まで1時間ほどあったので、おばあちゃんにも加わってもらって、乾徳山の歌を聴くことができた。

難易度の高い山を無事に終えることができ、ホッと一息。しっかりサポートしていただいたみなさま、ありがとうございました。

記：網干



乾徳山山頂にて

#### 《参加者の感想》

梅雨の晴れ間、晴天に恵まれ素晴らしい展望を望むことができました。

頂上手前の岩場と鎖場は高度感があり大変緊張感がありましたが、やはり、岩場はおもしろいですね！

前日にロープワークを練習していたのでイ



メッセージトレーニングができ全員、無事に通過することができました。ブーリン結びも多くの方がマスターし、スキルアップすることができました。常にロープやシュリングを携帯し、いざという時には使えることがセルフレスキューにもなり、安全性も高まりますね。

今後も継続して確認し、みんなでより高いレベルを目指しましょう！ 記：M.Yさん



一番厳しい岩場を下る

先日は雨の合間の晴天の中、乾徳山へ行ってきました。行程時間が長いこともあり、三富の山吹荘に前日、宿泊。ここの民宿の料理は山菜や川魚、山梨の奥の民宿ならではの食事でこういう食事をとっていたらさぞかし長生きできるだろうと思ったが、案の定、こちらの民宿のおかみさんは90歳。なるほど、やっぱり。食事って大事です。

春せみが一生懸命泣いている樹林帯の中では緑のトンネルで美しかった。乾徳山は山頂直下に滑り台のような岩場がある。もちろんすべったらそのまま山から放り投げだされる。山頂直下の岩場にいきつくまで何度も岩場の間を岩にしがみついて登る。暑かったから岩の冷たさがわたしは心地よかった。

森林を超えると、ずらっと山々が見えてくる。景色はすごくいいんだけど、下をみれば崖っぴちの岩場をトラバースする。鎖があるところはそれをたよりにいけばいい、Fさんはやや声を高くあげながら頑張っている。そんな難

所をひとつひとつクリアしていく。

そこでとうとう現れた天狗岩。鎖場をロープで確保して、みんな無事に完登。山頂に登りついたMさんも、Fさんも興奮してるようだった。わたしも興奮していた。みんなよく頑張ったよね。日頃の訓練のたまものです。目がみえなくてもやりたいことに挑戦する、人の強さって折れない心なんだなと思う。いい山行でした。冗談いいながら声かけながら、励ましあいながらみんなでいったからいけたんですね。山仲間っていいですね～。

いつもながらその場を冗談をいいながら盛り上げてくれるリーダー。30mロープをかついで登って確保をしながら見守ってくれたYさん。ありがとうございました。参加者のみなさんの方に心より感謝します。ありがとうございました。 記：S.Kさん



美しい朝の富士山

先日は本当に嬉しかったです。まず、ここが登れなかったら次に進めないと思っていたのです。皆さんにはご迷惑かけてしまいましたけどこれからも鎖場岩場に挑戦してみたいです。クライミング頑張っって三点支持を練習します。

記：Y.Fさん

### コースタイム

徳和(5:55)…乾徳山登山口(6:25-6:35)…国師ヶ原(8:10-8:20)…扇平(9:00-9:10)…乾徳山山頂(10:30-11:10)…扇平(12:30-12:55)…徳和(14:55)

## ★那須・日の出平(6月23日)

参加者 会員(健常者6名)

梅雨時のため、天気予報が難しく、週末の予報がころころ変わった。直前になって、土曜日は雨の可能性が高くなり、日曜日が晴れとなったため、参加者が少人数であることもあって、日程を変更し、日曜日に実施することとした。

土曜日も天気が良かったそうだが、日曜日もますます梅雨時としては、十分好天の部類だった。



ロープウェイを下りて茶臼岳の山腹を巻くコースを歩き始める。雲が多いが青空も見えて、すがすがしい天気だ。ピンスイがさえずり、足下にはコイワカガミやマルバシモツケが咲き、ベニサラサドウダンも真っ赤な色を目立たせていた。

牛ヶ首に着くと尾根の反対側の風景が広がる。高山植物が美しいと言われる流石山から大倉山がよく見える。水蒸気をもうもうとあげる無間地獄に行ってみた。シューシューと激しく吹き出す音がしている。山は生きているんだなと感じる。

牛ヶ首から尾根を登って今日の目的地、日の出平に登る。足下にはツマトリソウやマイヅルソウが咲き、振り返ると茶臼岳がよく見える。ウラジロヨウラクも咲いていたが、足下を見ると、コイワカガミの白花が目についた。周囲には白花がいっぱいある。この付近のコイワカガ

ミは全て白花だった。白花を見たのは初めてだったので、感激だった。



日の出平は展望がなかったので、写真も撮らないで出発した。日の出平から南月山への尾根は、展望が良くとても気持ちよく歩ける尾根だ。ヤマオダマキが咲いていたと思ったら、一つだけ白花のヤマオダマキを発見した。キバナノヤマオダマキとも違って、とても品の良い白花だった。

右手を見ると、姥ヶ平の池が見え、沼原の池も見えた。南月山で少し早い昼食タイムとする。茶臼岳がよく見え、展望の良いところだ。大倉山の左奥に、雪を抱いた山が見えたが、帰ってきて調べてみると、どうも越後山脈の御神楽岳方面だったかもしれない。



南月山からガスの中を歩いて白笹山に向かう。白笹山は展望もなく、標識がなければ山頂とも思わず通り過ぎてしまいそうなところだった。

白笹山から少し急な登山道を下りると、沼原

湿原の駐車場に到着する。タクシーの時間まで50分ほどあるので、湿原まで行くことにする。湿原は、レンゲツツジやニッコウキスゲ、コバイケイソウなどが咲き、すばらしいところだ。休憩していたら、トキソウも見つけた。また、カッコウやホトトギスなどが鳴き、イカルが「お菊二十四」とさえずり、アカゲラが巢で鳴き声を上げる雛たちにえさを運んできたが、私がいたためなかなか巢に近づかなかった。写真を撮ろうと待っていたが、申し訳ないので、あきらめて駐車場に戻った。

今回は、きつい登りなどもなく、展望を楽しめ、最後に沼原湿原も楽しむことができて、とても良かった。今度は秋に来たり、高山植物が美しい流石山に行こうかと話が弾み、最後に板室温泉で汗を流して帰路についた。

## ★榛名山(6月30日)

参加者 会員(障害者4名、健常者7名)

霧が立ち込める中の出発となりましたが、雨には降られず予定通りのコースを歩くことができました。ヤセオネ峠から約30分で相馬山と松之沢峠への分岐があり、そこから相馬山への往復となりました。ここからは岩場やハシゴが現れますがみな慎重に進んで無事に通過しました。途中でトレランの練習をしているグループが先に進み、途中で下り方をレッスンしていました。くだりは後掲姿勢になるのはかかるとに重心があるケースが多いので、つま先を伸ばすように足を出し、足全体を地面に接地するようにと指導されていました。登山にも共通するのではないかと思います。

霧が晴れず展望はのぞめませんでしたが、黒髪神社に参拝して少し休み、下山しました。下りは登りよりゆっくり慎重に降りました。コケ



ハクサンチドリ

## コースタイム

那須ロープウェイ(9:30) … 牛ヶ首(10:05-10:20) … 日の出平(10:40-10:50) … 南月山(11:10-11:45) … 白笹山(12:20-12:30) … 沼原湿原(14:00-15:00)

や湿気でややすべりやすかったのですが無事に通過しました。するす峠では展望のよいすす岩に登ろうとお昼を後にして登りました。ハシゴを登って右側の岩の上にはからす天狗の石仏があり、ここに立つと高度感がありました。Cさんが「ここにはみんな登ったほうがいい」とすすめてくださり、みな岩の上に上り、交代で写真を撮ることができました。(Sさんはみんなの荷物を守る為、下にいてくださいました。お陰で空身でいくことができました。)



スルス岩にて

少し進んだところにベンチがあったのでここでお昼にしました。H,Nさんがここで帰ら



れるので14時前にお別れとなりました。忙しいスケジュールの中、半日お付き合いいただきありがとうございました。



昼食タイム

七曲峠からは天目山を目指しますが木の階段が連続しなかなかの厳しい道のりでした。ここが一番忍耐のいる登りとなりました。天目山を降りて最後の氷室山への登りも結構、長い階段があり疲れた足に響きました。

予定のバスに間に合いそうにないので1時間後にすることを決定し、ゆっくり下山しました。木の階段が多く滑りやすかったので皆、慎重に進みました。平地に降りると全員で握手を交わしバス停に向かいました。帰りは1時間遅くなりましたが、岩あり、ハシゴあり、階段ありとバリエーションに富んだコースで面白かったです。みんなで岩場をクリアできたのは大きな自信になったと思います。皆様、ご協力どうもありがとうございました。

記：餘永



相馬山山頂にて

#### 《参加者の感想》

曇り加減で雨がいまにも降りだしそうな天

気の中、榛名山へいってきました。すぐに雨具が取り出せるようにして準備万端で出発。雨に濡れた森の葉は生き生きとして綺麗でした。

春セミの鳴き声を聞きながらルンルンと歩く。Nさんとわたしは話に夢中になってついつい足が止まってしまう。後ろからしゃべりながら歩くようにという指令が飛んでくる。リーダーが今日の核心部という相馬山、はしごと鎖場をクリア。

ここで午後に用事があるというNさんとお別れ。Nさんと別れてから、静かな山になって、その空気に慣れるまで時間がかかった。

それよりもわたしの核心部があとに待っていた。こけがついて、湿気でそのこけがしっとりと濡れた木の階段。これには参りました。足をフラットに置いて体重移動していく。変な汗がでてくる。やや斜めに傾いた木の階段、左足を置いたとたん、つるんと滑って、空を仰いでしまった。左足は階段の間に挟まってぬけない。逆さになってもがいている、まるで片足を掴まれた蛙です。YKさんが起こしてくれて、Cさんが足を抜いてくれた。蛙から人に戻った気持ち。そのまますぐに歩き出せたのでよかった。歩くたびにおしりが痛かったが・・・

階段はまだまだ続いたが、またひっくり返るより、ヒルに噛まれてもいいと藪の中を歩く。そう思ってここを歩いた人もいたようで笹が倒れていたの歩きやすかった。雨にも降られず、時折日差しもそそいで、後半30分で榛名湖と榛名富士がお目見え。アップダウンのある、榛名外輪山一部縦走。なかなか手応えのある山行でした。Fさんが今日の歩数を発表。1万8千歩。今日もよく歩きました。するす岩へ登頂するサプライズがあって、「みんなをここに登らせたかったの」と笑顔で話すYリーダーに感謝です。そして参加者のみなさん、楽しい一日をありがとうございました。記：S.Kさん

またまた やりました。今回ははしごとする

す岩とアップダウンです。雨が降るような天気  
で始まりましたがなんとかもちました。そして  
はしごを登ってするす岩も登ってカラス天狗  
にタッチして帰りのバス時間まであのワカサ  
ギを食べて飲んで電車の中でも食べて充実し  
た日でした。そして久しぶりに二人のSさんと  
ご一緒出来てラッキーでした。記：Y.Fさん

榛名湖の周りの外輪山を榛名山と呼ぶとは  
じめて知りました。距離はけして長くはありま  
せんでしたが、整備された登山道に感心し、何  
度も続くアップダウンに縦走の醍醐味を味わ  
い、ハシゴや鎖そしてスリル満点のするす岩、  
円錐形の可愛らしい榛名富士、穏やかな湖面の

### ★北穂高岳・涸沢（10周年記念山行）（7月27日～29日）

参加者 会員(障害者4名、健常者13名)  
会員外(健常者2名)

☆7月27日

今回は、3回計画した10周年記念山行の最  
後となる北穂高岳・涸沢だ。北穂高岳は、これ  
までの登山でも最も厳しい山の一つとなる。や  
さしい山を楽しむと共に、このような厳しい山  
を望む人もいるため、今回はハードな山を計画  
した。

上高地に着くと雨が降っている。最初から雨  
具を付けての出発となる。明神に着く頃には土  
砂降りの雨となり、この先が心配になる。しか  
し、次第に雨は止み、横尾に着く頃には日も差  
すようになってきた。しかし、穂高の山頂方面  
は雲の中に隠れている。

センジュガンピやタケシマランの実などを  
楽しみながら歩き、昔登った屏風岩をいつもな  
がら懐かしく見上げる。本谷橋で昼食タイムと

榛名湖と書ききれないくらい沢山の味を味わ  
えた山でした。あの何度も続く長い木の階段は  
一人では途中でギブアップしていたことでし  
ょう。やっぱり仲間がいると頑張れますね。皆  
さんまたよろしくお願いします。

記：M.Sさん

### コースタイム

ヤセオネ峠(10:00)…相馬山(11:10)…する  
す峠(12:00)…行人洞・するす岩(12:40)…沼  
の原(13:30)…七曲道下(14:15)…天目山  
(14:50)…氷室山(15:20)…榛名湖バス停  
(16:00)

する。登ってきた方向を振り返ると、蝶ヶがよ  
く見えている。このまま晴れてくれるとうれし  
いのだが。



涸沢のモレーンの上に涸沢ヒュッテが見え  
てくる。周囲の残雪は、やはりかなり多いよう  
だ。ヒュッテの手前で、雪渓に飛び出す。ここ  
まで来たので、私は先にヒュッテまで行き、宿  
泊の手続きをすることとする。

ヒュッテのテラスで入山を祝っていると、K  
さんが山仲間アルプ設立10周年を祝うケー  
キと小旗を持ってきてくれた。Fさんは今日が  
誕生日だそうで、Fさんの誕生日祝いの小旗も用  
意してくれていた。小さなろうそくを立て、先  
に火を付けるが、蠟がたれる前に消す。





涸沢ヒュッテで10周年祝いを

みなさんのおかげで、10周年を迎えることができ、初めて穂高の山に登ることもできそうです。北穂も奥穂も、視覚障害者の人をサポートして登ったことはあるけれど、それはもう15年以上も前の話。まだまだ若くて、体力にも技術にも自信のあった頃なので、この年になってもこのような山をサポートできることはとてもありがたいことですね。

☆7月28日

朝、目覚めると、昨日と同じように山頂付近には雲がかかっている。それでも昨日よりは良いようだ。早めに準備をして5時40分に出発する。



涸沢ヒュッテとテント場を瀬に雪渓を登る

雪渓を歩き、涸沢小屋から夏道を歩くようになる。今年は、コバイケイソウの当たり年のようだ。次々にコバイケイソウの群落が現れる。ニッコウキスゲやタカネグンナイフウロ、ハクサンフウロ、ミヤマキンポウゲ、シナノキンバイなどの高山植物たちが次々に現れる。振り返ると前穂高岳北尾根が、いつもながらの形の良

い姿を見せてくれる。



前穂北尾根と涸沢

2回ほど手を使って登る岩場を登り、お花畑の横を登っていくと、いよいよ南稜へ上がる箇所にある岩場に到着した。ここが、今回の核心部だ。登りなのでロープの確保は不要と判断し、鎖などを頼りに慎重に登っていく。最後のはしごを登ると南稜に飛び出す。ここで少し休憩をして、さらに上を目指す。



南稜へ上がる岩場を登る

急登が続き、時々、片側が切れたところをトラバースする。鎖場もあり、ぐいぐい登っていく。すると、登山道にライチョウの雌が出てきた。写真を撮るが、後ろから来た人がライチョウのことなどお構いなしに登ったため、ライチョウはハイマツに隠れてしまった。もうだめかと思ったが、探していたら、ハイマツから頭を持ち上げてくれた。さらに岩にも登り、数枚写真を撮らせてもらう。

さらに登ると、傾斜が落ちて、南稜のテント場に着く。ここにもライチョウがいた。今度は親子だ。雛は4羽ほどいただけるか？ 天敵に襲われることなく、大人へと成長して欲しいも



のだ。南稜のテント場も、3回ほど泊まっただろうか？ どこも懐かしい。



さらに登っていくと稜線の分岐に飛び出した。これから向かう方向に雪渓が見える。この雪渓から滑り落ちたら間違いなく命がないので、みんなで軽アイゼンを付けて通過することにする。しかし、雪渓に行ってみると、しっかりとステップが切っており、山側を登るとアイゼンなしでも全く危険ではなかった。

アイゼンを外し、少し登ると、松涛岩の基部、飛騨側の滝谷の岩壁を登る時に下るC沢の降り口まで行き、滝谷側を見るが、ほとんど霧で何も見えなかった。しかし、足下には、シコタンソウが咲いていた。



少し登るとすぐに山頂だ。何も見えない山頂だが、集合写真を撮って、北穂高岳小屋で休憩する。NさんとKさんは、月曜日が仕事のため、ここで分かれて来た道を引き返していった。二人が下りていって、少ししたら「世界の車窓から」のナレーターで有名な石丸謙二郎さんが登ってきた。みんなから進められて、一緒に写真

を撮らせてもらった。視覚障害者の人たちと登っていることを知り、応援して下さった。

お昼を食べた後、山頂を後にして、下山にかかる。少し下ると、石丸さんが後ろから追いついてきた。しばらく私たちの歩き方を見た後、先に下っていった。

下りは登りよりも危険がいっぱいのため、慎重に下っていく。下り始めて間もなく、雨が降り始めた。核心部はロープを出して視覚障害者の人を確保し、慎重に下った。雨は、降ったり止んだりだった。

先頭とラストがかなり空いたが、涸沢小屋で待つことにする。涸沢小屋に着くとすぐ、北尾根の最低コルの上に虹が見えた。まるで私たちの登頂成功を祝ってくれているようだった。



☆7月29日

夜半から雨が降り出していた。今日は本降りの雨になりそうだ。テント組の人たちは、雨の中での泊まりとなった。小屋がいかにありがたいか、昨夜、全盲のMさんも分かったと言っていた。雨のテントを初めて経験した人も今回は多かったのではないだろうか？ きっと貴重な経験になったはず。

カッパを着て、雪渓を下る。雪渓の末端近くの凍ったところで、KOさんが足を滑らせて転んでしまった。ちょっと滑って転んだだけだと思っていたが、なかなか起き上がらず、起きて立とうとすると、右足がびりびりして力が入らないようだ。膝の裏の靭帯を痛めたようだ。

歩けるかどうか心配だったが、Iさん、KU

さん、Uさんと私がIさんに付き添って下りることとし、他のメンバーは先に下ってもらう。膝をテーピングし、痛み止めを飲んで、ダブルストックで下ったもらおうとしたが、痛むようで、Iさんが肩を貸して下り始める。KOさんの荷物もみんなで分担し、KOさんには空身で下ってもらう。

Iさんのサポートのおかげで、比較的順調なスピードで下ることができた。何度か、苦痛に顔をしかめる時もあったが、本谷橋を過ぎ、横尾に近づいてきた。Uさんが横尾山荘から車に乗せてもらおうと先に下って、お願いに行くことにする。しばらくしたら、先に下ったSさんが応援に登ってきてくれた。

横尾山荘で、事情を話し、車に乗せてもらうためには、事故扱いにせざるを得ない。事故扱いになるのは非常に苦しいが、KOさんの予後を見ると、これ以上膝の靭帯に負担をかけない方が良いので、警察と電話で話し、横尾山荘の車に、KOさんと私が乗せてもらって、上高地まで送ってもらうことになる。

上高地の交番で着替えさせていただき、警察の方が診療所まで往復とも送ってくださった。とてもやさしいおまわりさんだった。やはり靭帯を損傷した可能性が高いとのことだった。

みんなも上高地に到着し、ここからタクシーに乗って松本に向かい、温泉に入って汗を流し、千葉行きのおすさに乗り込んだ。

けがもあったし、天気も良くなかったけど、北穂高岳の山頂にたち、いろんな経験ができた山行ではなかったでしょうか？

今から18年前の秋、史上最大級の台風が接近する中、視覚障害者の人たちと奥穂高岳に登ったことがあるのですが、そのときも冷たい雨に打たれてやっと登り、最後の日は、上高地から沢渡までの道路が雨量規制でバスが運行できず、歩いて下ったことを思い出す。奥穂への登りは冷たい雨の中で順番待ちだった。こらえきれずに一人の視覚障害者の男性が「おーい、

早く行け」と言った。しかし、自然は全ての人に対して平等だ。障害のある人だけにやさしい雨を降らせることはない。他のパーティーをせかすことなど許されないことだ。このときは、みんな辛抱して登った。

そのとき、「岳人」から紀行文を掲載していただいたが、その最後にこう書いている。奥穂高を北穂高にすると、そのまま今回に当てはまりそうだ。

目が見えぬハンディ超えて奥穂高 冷たい雨も明日は思い出

記：網干



《参加者の感想》

ありがとうございました。

岩場のひたすらののぼり、くだり、二人のS氏のいたれりつくせりのサポート。誕生日のためのケーキ、おいしい食事、雨のなかのテント泊、私にとっては、はじめての経験でした。

記：Y.Fさん



10周年記念山行第3弾、北穂高へ行く日が



やっときた。さわやか信州（夜行バス）は相変わらず満席で人の熱気で車内は暑く、寝たのか寝てないのか、そんな状態で上高地へ着いた。

空は曇り加減。雨の中出発。時折晴れ間も見えるが集中豪雨のような雨にも見舞われる。そんな雨の中、わたしは自然の中では小さな生物にすぎないんだと感じる。長い林道を容赦なく歩き続け、横尾についたときは晴れていた。今日は栄光の架け橋（横尾大橋）を渡るのだ。テンションがあがる。この橋を越えると空気が変わる気がするのわたしだけだろうか？

本谷橋ではお決まりのドリップコーヒーを飲む。美味しい。至極の幸せ。涸沢の鯉のぼりが見えてくる、これが見えてからが長い。雪渓に汗をこぼしながら歩いて歩いて今日のゴール涸沢にたどりつく。またきてしまった～涸沢。ここからの景色は申し分がない。以前年配の男性が涸沢は母親の胎内のよう、といった言葉を思い出す。まさしくそうだと思う。穂高連峰に囲まれてそこにカールがあり、お椀の真ん中にいるみたい。



ハクサンイチゲの群落

翌日北穂高へむかったが天気はいまいち。でも時折遠望がよくなり、富士山もしっかりみえた。コバイケソウの群落は素晴らしかった。たくさんの方がわたしたちを歓迎してくれて、そう感じた。雷鳥の親子も初めてみる事ができた。ひなが小さくて可愛かった。北穂高からの眺望はまったく見えなかったが、そこで究極のコーヒーをいただいてほっとする。もっともっと長くいたかったが今日はここから上高地

までくだらなければならない。仲間に挨拶をしてみると涙がでてしまいそうなので、早々に下山にとりかかる。

涸沢までは雨に降られて、上高地まで帰る気持ちが折れそうになったが、涸沢のテント場で待ってるMさんと合流したらもうそんな気持ちは消えていた。上高地についたときはもう薄暗く、タクシーに乗った時の安堵感はなんともいえなかった。

北穂高への岩場、ガレ場、ザレ場、鎖、ハンゴ、雪渓、いろいろなことを経験させてくれる山々。緊張をほぐすかのように北穂小唄を歌ってくれる、リーダー。顔は笑ってるが目は真剣だ。毎度リーダーに感謝の言葉しかいえないわたしであります。Aリーダー、ありがとうございました。

わたしは大きな山にいて終わると母に会いたくなる。厳しい山行を終えると感謝の気持ちがわいてきて会いたくなる。会えば笑顔で「おかえり」といってくれる。まるであの涸沢カールの情景と同じだ。またいこう、あの涸沢へ。そしたら涸沢が「おかえり」といってくれるだろう。

記：S.Kさん



シコタンソウ

## コースタイム

7/27 上高地(6:40)…横尾(9:45-10:05)…  
本谷橋(11:35-12:10)…涸沢ヒュッテ  
(14:30)

7/28 涸沢ヒュッテ(5:40)…南陵  
(8:00-8:20)…北穂高岳  
(10:25-11:30)…涸沢ヒュッテ

(15:50)

7/29 瀬沢ヒュッテ(6:10)…横尾(11:00)…

## ★竜ヶ岳(8月18日)

参加者 会員(障害者1名、健常者5名)

根原バス停からスタートする人は少ないようで、タクシーの運転手さんも場所をわからない様子でした。しばらくは民家の間を進み、養蜂所やきのこの栽培をしているような場所をぬけ、地図どおりに進むと自然道を含めた地図や看板が現れ正しい道であることが確認できました。貯水池の脇を進み、端足峠の分岐を過ぎたころから傾斜がでてきました。樹林帯の中は無風でじんわりと汗をかきましたが、端足峠からは風が抜けて涼しくなりました。



クマザサの道を山頂目指す

くま笹の道に入ると霧が出始め展望はなくなってきました。山頂に到着した時には、風も強めになり肌寒いくらいの気温となりました。ちょうど風をよけるような場所にテーブルと椅子があり、そこでお昼としました。

Tさんにお持ちいただいた大きくて甘いブラムを頂き、富士山を心に描きながら下山しました。途中でアサギマダラと思われる蝶が目の前に止まっていたので写真に収めることができました。

かわいらしい石仏がある東屋で休憩し、順調にくだり予定より1時間程度早く本栖湖キャンプ場に到着しました。荷物の整理などしながら

上高地(13:20)

らゆっくりと休憩し16時の河口湖行きのバスに乗りました。駅周辺も渋滞がなく、予定通り河口湖駅に到着し、それぞれ帰途につきました。



龍ヶ岳山頂にて

山頂からの展望は望めませんでした。登り始めと終わりに見えた富士山はやはり大きく、さわやかな空気が気持ちのよい本栖湖周辺の山行でした。次回は富士山の山頂が美しい白色に染まる姿を見たいと思いました。



アサギマダラ

<補足>

今回は本栖湖キャンプ場にテント前泊したメンバーがいきました。テントを練習したい人にとっては大変勉強になるのでまたこうしたテント前泊を含めた山行計画を立てたいというリクエストがあり、希望する計画があれば提案していただくようお願いしました。今後の検討材



料として考慮していきたいと思います。

記：餘永(光)



#### 《参加者の感想》

今回は富士山の麓、ダイヤモンド富士が見られると有名な竜ヶ岳へ。

前日テント泊した本栖湖キャンプ場から歩いて根原登山口へ向かったが、アスファルトからの太陽の照り返しが強くてここでもうバテそうになってしまった。

わたしは寒さには強いが暑さにはどうも弱い。先週も熱中症に近い症状に襲われたから今回も少し懸念していた。

河口湖駅からきたリーダーと田坂さんの乗るタクシーに拾われたときはとてもうれしく感激してしまった。

車ではすぐについたが歩いたら相当かかるだろうなと思い、文明の利器に感謝する。歩き出しから暑かったが時折吹く風が心地よかった。時折倒木の間を縫う感じで歩きにくいところもあったが全体的には比較的歩きやすい登

山道だったと思う。トレラン姿の方も見受けられた。

富士山は頭を少しだして 2000～3000m くらいはガスがかかっていた。河口湖駅でたくさん富士登山を目指す人をみたのであの場所で頑張っているんだろうと想像した。きっと寒いくらいだろう、先々週の薬師岳のように。

こちらは吹き出す汗を吹きつつ、長い笹尾根をつないで山頂へ。広い山頂。12月終わりにはダイヤモンド富士を見る人で一杯になるんでしょう。わたしたちはすっかり雲の中にはいってしまったようで霧で真っ白な中で昼食タイム。少し寒く感じた。

笹の道、迷路みたいな道を歩いてくたっていく。深澤さんは半袖なので痒い痒いと連発。こんな道は長袖か、腕のサポーターは必須だと思いました。どんどん下山するうちに雲からぬけていき、本栖湖キャンプ場についたときはまたじりじりと暑い夏にもどっていた。

前日に下見までしてくれた餘永リーダー。同じ山に何度登ってもいいの。とって笑っていました。おかげさまで安全な山行で終わることができました。ありがとうございました。

記：S.Kさん

#### コースタイム

根原登山口(10:00)…端足峠(11:15)…竜ヶ岳(12:15-12:45)…石仏・東屋(13:30)…本栖湖キャンプ場登山口(14:35)…本栖湖入り口(16:00 バス)ー河口湖駅(16:45)

### キャンプ報告

#### ★第7回ふれあいキャンプ(氷川キャンプ場)(8月24日～25日)

参加者 会員(子ども6名、健常者11名)

会員外(子ども4名)

☆8月24日

今回は、大人的人数(11人)に対して、子どもたち(10人)の参加が多く、事前の注意事項を親御さんに伝えておいた。子どもたちは、

15分川に入った後は5分休む約束をしっかりと守ってくれた。川遊びが終わった後は、川に行かない約束も守ってくれた。子どもたちをできるだけ縛らないようにしたいが、最小限の約束だけを決めて楽しんでもらった。

氷川キャンプ場に着くと、いつも泳ぐ多摩川は泥で濁っている。ここまで来て、川に入りませんというのでは、子どもたちは納得しないだろう。深いところに入らないように、注意して遊んでもらう。3年前にここで実施したときは、川の様子が違って、下流をせき止めて、全体的に川を深くしたようだ。



濁った川で遊ぶ

自宅からSさんが浮き輪やライフジャケットを持ってきて、子どもたちに使わせてくれた。Yさんは、2着、キャンプ場から借りてきてくれた。子どもたちの中で一番年上のT君は、ロープでつないだペットボトルを使って対岸近くまで行って、引いてもらうことに夢中になっていた。最後は、S君と共に、対岸まで行ってロープで引いてもらって楽しんでいた。

障害のあるH君は、ライフジャケットを着て、Yさんから手を引いてもらって川に膝上くらいまで入って楽しんでいたが、今日、熱を出して休んだ妹のAちゃんが心配なので、お母さんと水遊びの後、帰ることになった。

川で遊んだ後は、交代でシャワーを浴びて着替えを済ます。そして、食事づくりにかかる。今回は、カレーライス。子どもたちも手伝っていた。歌も始まって盛り上がった頃、キャンプファイヤーが始まる。手持ちの花火も子どもた

ちは楽しんでいた。

大人たちは、いつの間にか22時を回るまでいろいろ話し合ってから寝床についた。



キャンプファイヤー

☆8月25日

6時起床。外は雨が降っている。次第に本降りになってしまった。



朝食を食べる千葉市トリオ

竈に火をおこし、大きな鍋で味噌汁を作る。サラダもきれいにできていた。朝食は、パンが主食。朝食の後は、スイカ割り。大きなスイカが準備され、スイカ割りようにバットも準備された。外れる子もいたが、しっかり命中して割れ目が入り、さらに完全に割れるまで続けられた。全員の子もたちがスイカ割りを楽しみ、割ったスイカをみんなで食べる。後片付けをした後、集合写真を撮って、この場で一時解散とする。

9人の子もと5人の大人で、バスに乗って日原鍾乳洞に行くことにする。東日原でバスを降り、鍾乳洞まで30分ほど歩く。鍾乳洞に着くと雨が降り出してきた。

迷路のような鍾乳洞の洞窟を歩いて行き、水



琴窟や死出の山、縁結び観音などいろいろ見て外に出ると、まだ雨が降っていた。出て左手を見ると、沢にかかる小さな滝と一石山のオーバーハングした大きな岩壁が見えた。

時間があまりないが、食堂の方にすぐに準備できるか聞くと大丈夫だということで、ラーメンなどを食べて、東日原のバス停に早足で向かった。私は、最後方から先頭を狙ったが、最後はS君に負けてしまった。雨も上がり、奥多摩駅に着いた頃には、日が差していた。

事前の食材などの分担や食材調達・運搬、イベント企画、川遊びの安全対策、火お越しや食事づくり、準備に後片付け、スイカ割り等々、協力していただいたみなさまに感謝申し上げます。

記：網干



スイカに命中

#### 《参加者の感想》

今日は待ちに待った親子ふれあいキャンプ。孫たちは2週間前から言い出して、金曜日は興奮状態。高田馬場で待ち合わせしたら駅内で大騒ぎして大変だと思い、みんなより奥多摩駅に一本早く着きました。

奥多摩駅でみんなと再会。その喜びようはすごかった。わたしのことはもうすでに眼中になくなっていったようです。川は濁っていて警備体制に入るのも躊躇するくらい。しかし、子供たちは入りたくて仕方ない。どんな状況であろうが子供たちは遊ぶことには目がない。まっしぐら。そういう気持ちって大事だと思います。川遊びからあがってのシャワーや食事作り、食事、キャンプファイヤー、花火。

子供たちは昨年みたいにわたしにまわりつくことなく、どこかで仕事、遊びを一生懸命やっていたようです。だいぶ自立したんだな～と感じたと同時に寂しさも感じたものです。キャンプファイヤーでかける音響が気になっていたので試しにかけてみたら、子供たちが歌ってくれて、炊事場は合唱に包まれました。

どこかで山仲間アルプは音楽のサークル？と言われたそうですが、それもいいな～なんて思いました。その音響は本番のキャンプファイヤーでは川の音でかき消されほとんど聞こえませんでした。(残念)

2日間子供たちはフル活動。そのエネルギーはすごかった。こちらはへとへとになりました。登山より大変かもしれない。子供が多く、大人が少ない中、たくさんの料理の手配、運搬、調理。関係者の皆様お疲れ様でした。子供たちへのたくさんの思いやり、うれしかったです。子供たちが大人になったとき、いつか同じことを別の人に別の形でやる日がくると思います。皆さんのおかげで子供たちは大人になるって？を学んでいるようです。

Sくんはじめ子どもたちにも感謝です。2日間、目一杯遊んでくれてありがとう。H.Yくんが家の都合で夕方帰ってしまい、残念でした。もっともっと一緒に遊びたかったのにね。また山で会いましょう。そしてまたあの歌を聴かせてください。

記：S.Kさん



#### コースタイム等

8/24 奥多摩駅(11:30)…氷川キャンプ場(昼

食 12:00-12:30、川遊び  
12:40-14:00、食事づくり  
14:30-16:30、夕食 16:30-17:00、  
キャンプファイヤー 17:30-19:00、  
消灯 21:00)

8/25 氷川キャンプ場(起床 6:00、朝食作り

6:30-8:00、朝食 8:00-8:30、片付け 8:30-9:30、一時解散 10:00)…  
奥多摩駅(10:20 着、11:00 発 バス)  
— 東日原 (11:25) … 日原鍾乳洞  
(12:00-13:05) … 東日原バス停  
(13:30 着)

## その他事業報告

### ★定期総会開催

5月26日(日)に第10回目となる定期総会を開催しました。

詳細は、定期総会議事録をご参照ください。

## 各種連絡事項

### ▲第14回視覚障害者全国交流登山東日本大会下見実施

2014年度に当法人主催で実施する第14回視覚障害者交流登山大会の下見を9月14日から15日に実施します。磐梯山、安達太良山、五色沼の登山・ハイキングコースの下見と共に、国立磐梯青少年交流の家の下見及び利用

に関する必要事項などの確認を行ってきます。下見は、実行委員で行ってきますが、来年になってからの準備や、大会当日の運営などで、会員のみなさまのご協力をお願いいたします。

## 会員情報

### ◎新入会員のお知らせ

6月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしく申し上げます。(敬称略)  
正会員

## 編集後記

### ・理事長のつぶやき

北穂高岳でお会いした「世界の車窓から」のナレーターとして有名な石丸謙二郎さんが、ご自身のブログで、このときの様子を「驚くべき登山」というタイトルで、紹介してくださっていました。全く目の見えない人が、岩だらけの北穂高岳南稜を登ってきたのを知り、ご自身が超えてきたキレットは「平地を歩いているよう

なものだ」と書き、「人間の可能性は、どこまでひろがっているのだろうか?感動した・・・アナタは素晴らしい。いや、アナタたちは素晴らしい!」と書いてくださっていました。

このように書いていただいたことに恐縮するばかりですが、このような登山をする視覚障害者の人、サポートする人、リーダーをする人



が非常に少ないのが現実だと思います。

山仲間アルプを始める前、ある健常者の女性が、「視覚障害者の人との登山は、魅力ある山に行かないのでつまらない。」とっていました。そこには、視覚障害者の人との登山は低山で我慢するしかないのに、高い山は力の合う仲間と楽しむという面が強かったのです。その頃から私は、3,000m 級の山や雪山にも視覚障害者の人と行っていたので、つまらない山ばかり

りではないと思っていましたし、そんな山をサポートすること自体が自分自身のチャレンジでもありました。しかし、低山ではつまらないから参加したくないと思う人がいることを参考にして、山仲間アルプの活動の中に、3,000m 級の高山も取り入れてきました。

これからも、無理のない範囲で、障害者も健常者も楽しめる山を当たり前のこととして取り入れていきたいと思います。

・次回発行予定は、12月です。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで  
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208  
NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝  
TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても平等だよ！！

